構想の背景～はじめに～（要旨案）

資料２

（要旨案）第３回検討会での議論を踏まえ作成。

○ 超高齢化社会では、高齢期をより前向きに捉えることができる新たな地域社会が必要。

- これからは人生100年ともいわれる長生き時代。高齢者人口は増加するが、少子化により他の世代の人口は減少していくと推計されている。
- このような状況は経済、福祉、子育てなど地域社会のさまざまな部分に影響をもたらすことになるが、一人ひとりの「生き方」自体にも影響をもたらす。
- その影響を不安に感じるかもしれないが、むしろ時代に応じたよりよい地域社会を構築するためのチャンスと捉えることはできないか。
- 人生が長くなる中で、「生き方」の面では高齢期をより前向きに捉えることが重要になってくる。このことは現在の高齢者だけでなく、それ以外の世代の生き方にも当てはまることである。

○ 新たな地域社会は若者・ファミリー層が活力をもって生活できる場であるべき。

- 新たな地域社会はまず、若者・子育て世代に活力があり、安心して子どもを産み育てる希望が叶い、将来に夢が感じられるものでなければならない。若者・子育て世代の力なしには新たな地域社会は実現できない。

○ 新たな地域社会の実現には住民がともに暮らしをつくり、高め合う「地域力」が不可欠。

- 新たな地域社会の実現は新たな関係づくりともいえる。新たな地域社会における複雑で高度な課題を解決していくには、住民がともに暮らしをつくり、高めあう「地域力」が不可欠である。

○ 生まれてから亡くなるまで全てのライフステージで、住みよいまちを創る。

- 超高齢化社会は全世代型社会でなければならない。まちは全ての世代の町民のためのものであり、また将来の世代のものでもある。生まれてから亡くなるまですべてのライフステージで住みよい聖籠町を創っていく必要がある。